

23日以降実力行使

メーデー迎え備進を 資本と権力へ示威

前夜祭や文化行事も

第四十一回目を迎えたメーデーの大牟田における祭典は、例年通り五月一日の午前十時から笹林公園で開催されることになり、すでにあくまで統一祭典をめぐり、分裂した府県が二十四府県にわたって、

あくまで統一メーデーをおし進めてきた東京では、今年も総評・同盟・中立労連・新差別別・東京地評・東京同盟の間で、遅れたにもかかわらず「昨年同様統一メーデー」に向けて準備を進めていることが分かった。

七〇年闘争のまっただ中に開催される今年のメーデーは、春闘と密着しながら、闘いの昇揚と平行して結果し、春闘における諸要求とりわけ十五大要求を掲げながら、

その輪を広げていき、文字通り「働く者の総決起の日、資本と権力に対する一大示威の日」にしなければならぬ。

これから大牟田の統一メーデー計画の準備はすすむが、とりあえず総評でまとめたスローガンは次の通りである。

中心スローガン
——大牟田上野獲得、労働時間短縮、全国一律最低賃金制確立、首切り合理化粉砕。
——物価値上げと重税反対、社

会保障制度の大幅拡充、住民のための地方自治確立。
——安条条約廃棄、沖繩の即時無条件全面返還、沖繩全島労働争支援助強、ベトナム侵略反対。

——週四十時間労働、週休二日制の実現。
——労働強化、労働条件改善反対、労働災害と職業病の絶滅。
——スト権確立、一切の弾圧反対、労働基本権確立。
——教育予算の増額、義務教育

炭労、四八ストを反復

春闘五ヶタ獲得一八九組合

炭労は大会決定にもつき、賃金の一万円(一万四百円)引き上げを柱に、石炭鉱業における最低賃金制(坑内夫四万二千五百円、坑外夫三万円)の確立、退職手当の引き上げ、じん肺予防措置と対策の強化、遺族補償五百万円などの要求を、政府・資本に対して提出、いよいよ春闘に突入しているが、「閉山や縮小にとりかわられてきたこれまでの過ちを改め、あくまで労働者としての基本的権利をつらぬくことが先決だ」と、これまでにない気がまぎえ、全炭鉱労働者の力を結集してこの春闘は、とくに不当な三井鉱山の差別配給のため泥沼の苦しみの中に巻き込まれている三池労組員にとっては重大だ。

機関紙通信の伝えるところによれば、今年すでに百八十九ものぼる労働組合が五ヶタ(一万円台のこ)以上の回答を獲得した。その中には次の通りである。

全国金属 加藤鉄工十二人の小企業、要求一万五千円。回答一律一万円。その他に家族手当が配偶者三千円、子供五百円。通勤費全額負担。▼大矢製作所 従業員百五十人。要結額二万二千

二万四千円、うち一律七千二百円。定期昇給三千三百八十円、一律六千円など。他に最低賃金三万八千円。▼川崎電子音響 一万円。一律三千円、基本給スライド八〇%。会社査定一〇%。▼北辰電機 一万円要求に一万円回答、会社査定従来の六〇%から一〇%へ、学歴別卒業年度別一律プラス給与比例、三十四・五才からは頭打ち。問題多く闘争中。

民放労連 ▼岩手放送 手当当て込二万七千七百円、一律四千円、定期昇給二千九百九円、家族手当組合員平均六百九十四円。▼労働者手当て平均五百七十四円。

▼中部日本放送 一律四千円。▼日本放送 一律四千円、本給スライド五千七百七十円、定期昇給三千九百九円、手当三千七百七十円。▼山陽放送 約二万四千九百九十九円、住宅手当四千円(新設)。▼東京放送 一律千円、本給スライド五千七百七十円、定期昇給三千九百九円、手当三千七百七十円。▼山陽放送 約二万四千九百九十九円、住宅手当四千円(新設)。

別に見ると、次の通り。
全国金属 一〇二 合化労連 一
化学同盟 一三 新聞労連 一
民放労連 一〇 全印総連 一
五出版 全損保 一 全信
労 一 ホテル共闘 二 全国

本紙では次号に、沖繩全軍労代表と、職場と地域で直接語り合った人々の座談会記事をかかげ、全軍労代表たちとの交流の中から得たものを明らかにし、つづけることにしている。

一方全軍労代表が三池から何を学んだか、何を感したか、三池に対してどんな意見があるか、など率直な思いを手に記すため、本紙に寄せてくれるよう託したので、沖繩から手記が届き、本紙に紹介することになっている。

さて全軍労代表たちが、三池以外で交流した模様はどうだったかといえは、いそがしい日程の中であらゆる単座や労働組合と交流を行なった。

化学三労組(三化・三谷・東正)では、委員、青年部員、ほか職場活動家たちが相手だったが、ここは三池と違って、語り合ふの中心にあるような疑問点も見がきず、あくまで理詰めの質問が集中したが、代表たちも「そこが話したかったところだった」と喜んだ。

全日自労との交流は、現場まわりで行なわれた。中には手製の手まりをおみやげに贈ったり、さては「沖繩で死んだ自分の夫が、向うにいたときにできた子どもを残

水園、労働金庫と、代表たちはい

くさきさきで大歓迎を受け、本土の労働者の胸の中に、沖繩全軍労への連帯が着実に育ちつつあるとまにまに、感動はつきなかつた。

全軍労代表、三池を去る これから連帯を強めよう



三池主婦会役員と交流する全軍労代表

去月二十五日以降三十一日までほぼ四十場所での交流を重ねてきた沖繩全軍労五人の代表は名残りを惜しむつ三池を去った。すでに全軍労では二陣一三陣の紹介することになっている。

本紙では次号に、沖繩全軍労代表と、職場と地域で直接語り合った人々の座談会記事をかかげ、全軍労代表たちとの交流の中から得たものを明らかにし、つづけることにしている。

一方全軍労代表が三池から何を学んだか、何を感したか、三池に対してどんな意見があるか、など率直な思いを手に記すため、本紙に寄せてくれるよう託したので、沖繩から手記が届き、本紙に紹介することになっている。

さて全軍労代表たちが、三池以外で交流した模様はどうだったかといえは、いそがしい日程の中であらゆる単座や労働組合と交流を行なった。

化学三労組(三化・三谷・東正)では、委員、青年部員、ほか職場活動家たちが相手だったが、ここは三池と違って、語り合ふの中心にあるような疑問点も見がきず、あくまで理詰めの質問が集中したが、代表たちも「そこが話したかったところだった」と喜んだ。

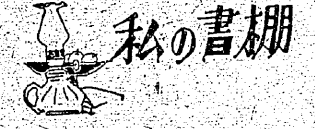
その他の行事

メーデー前夜祭
と き 四月三十日午後六時
と ころ 市民会館ホール
文化諸行事
俳句(五月十二日午後五時)、
短歌(同十三日午後五時)、川柳(同十四日午後五時) 場所は「すれも大地評。一人二首(句)以内。投稿は官製ハガキで、五月十日しめ切り。
他に囲碁・将棋大会やメーデー写真展も行われるが、次号で詳報

二〇万円を突
破したカンパ
代表を迎えるに際し、大地評が各単座に呼びかけて行なった沖繩カンパもすでに二十万八千円(うち三池労組分七万三千七百七十円)のほり、まだ集まる予定。「沖繩を返せ」という市民の要求が、このカンパになったことを思えばうれしいかぎりである。
なお、こんどやってきた沖繩全軍労代表の姓名と住所は次の通りである。(敬称略)
島袋 光男 沖繩県浦添村宮城
全軍労執行委員、社会保障部長。牧港支部委員長。浦添村
全軍労執行委員、社会保障部長。牧港支部委員長。浦添村
全軍労執行委員、社会保障部長。牧港支部委員長。浦添村

「この三月には、新労組の皆さんが職任大会があるそうです。既に幾人かの選手の方が、練習を始めていられます。新労の皆さんの職任大会が素晴らしい成果をあげられることを期待します。共にガンバろう!」この姿勢に学ばうではないか。

「団結・抵抗・統一」 改めて学ぶ「長期抵抗路線」



私の書棚

一口に「三池」
「〇年」の闘いとい
うけれども、闘い
のなかで、かつて
は、眠れる歌を世
間からいわれるよ
うに、組織人員は
二万五千名を教え
た。赤旗のうた、
者の抵抗や反戦に
なる歌をうた
た。解雇される。メ
ーデーに
も組合旗を赤にする
意見がまとまらな
かった時代と
現在の三池の現状
とくらべてみる
と、隔世の進歩を
感じる。

しかし、このことは一朝一夕に
よって変ったものではなかつた。
昭和二十七年炭労・電産共闘の六
三スト、昭和二十八年資本の弾圧
をハネのけて決起した主婦会の組
織つくり、ついで英雄なき一
三三闘争、昭和三十五年の三池と
安条闘争、昭和三十八年三池大爆
発事故をめぐる〇〇闘争など、闘
いの歴史は、傷つき倒れた多くの
仲間を涙によってつづらされた
ひたむきに人とし生きる、闘いの
重みをしじみと覚ゆる。

その闘いの歴史は、まさに労働
者こそ、団結・抵抗・統一以外に
勝利の道はないことを確固たるも
のに築きあげた。

「長期抵抗路線」それはいかに
貴重な「ダイヤ」「真珠」にもま
さる。かえがたい三池労働者の魂
の結果であり、ただ三池だけにと
どまらず、すべての労働者への道
標となってきたのである。

三池闘争以降、三池を訪れ交流
する人は全国のすべての地域から
毎年一、五〇〇名(延五、〇〇〇
名)のほりつづけている。それを
はつきり示してくる。

われわれは、苦難のなかで自ら
創りだした「長期抵抗路線」の精
神をもう一度たしかめる。

労働発行ハンドブック「抵抗・
団結・統一」をもう一度、読みか
えしながら明日への闘いに備えよ
う。 定価百二十円。